

鹿児島県初記録のボンボリカエルアンコウ

吉田朋弘¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

カエルアンコウ科 Antennariidae は日本近海に 3 属 15 種が生息し、その内の 12 種がカエルアンコウ属に含まれる (瀬能, 2013)。本属のボンボリカエルアンコウ *Antennarius hispidus* (Bloch and Schneider, 1801) は、神奈川県小田原市、和歌山県田辺湾、高知県柏島、および沖縄県沖縄島から記録されている (瀬能, 2013)。

2007 年 10 月 20 日に鹿児島県南さつま市笠沙町、2010 年 6 月 16 日に肝属郡肝付町内之浦湾において、ボンボリカエルアンコウ各 1 個体採集された。これらの標本は本種の鹿児島県初記録であるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測は瀬能・川本 (2002) にしたがった。標準体長は体長と表記し、デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、体色の記載に用いた生鮮時のカラー写真は同館の画像データベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：KAUM (鹿児島大学総合研究

博物館)；KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館)；KSHS：元高知高等学校 (現在は国立科学博物館に移管)；URM：元琉球大学理学部生物学科 (同登録標本は現在海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センターに所蔵)；WMNH-PIS-WW：和歌山県立自然博物館池田コレクション。

結果と考察

Antennarius hispidus (Bloch and Schneider, 1801)
ボンボリカエルアンコウ (Figs. 1-2)

標本 KAUM-I. 7116, 体長 69.5 mm, 鹿児島県南さつま市笠沙町片浦崎ノ山東側 (31°25'44"N, 130°11'49"E), 定置網, 水深 27 m, 2007 年 10 月 20 日, 伊東正英; KAUM-I. 34304, 体長 105.9 mm, 鹿児島県肝属郡肝付町内之浦湾 (31°17'N, 131°05'E), 定置網, 水深 40 m, 2010 年 6 月 16 日, 土田洋之。

記載 背鰭 3 棘 12 軟条 (最後の 2-3 軟条は不分枝); 臀鰭 7 軟条 (すべて分枝); 胸鰭 10 軟条 (すべて不分枝); 腹鰭 1 棘 5 軟条 (すべて不分枝); 尾鰭 9 軟条 (すべて分枝)。

体各部測定値の体長に対する割合 (%)：全長 135.1-137.5：頭長 60.7-62.9：吻長 10.5-12.9：眼径 4.8-6.6：両眼間隔 14.0-15.3：体幅 30.4-31.8：体高 61.3-64.9：尾柄高 14.8-15.8：吻上棘長 14.2-14.6：背鰭第 2 棘長 12.7-13.7：背鰭第 3 棘長 18.7-19.1：背鰭最長軟条長 30.4-31.0：臀鰭最長軟条長 24.5-26.5：胸鰭最長軟条長 25.5-25.9：尾鰭最長軟条長 37.3-38.4。

体は卵型で著しく側扁する。尾鰭は丸みをおびる。体表は小棘で覆われる。吻上棘の先端に羽

Yoshida, T. and H. Motomura. 2017. First records of *Antennarius hispidus* (Lophiiformes: Antennariidae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 67-70.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Antennarius hispidus*. KAUM-I. 7116, 69.5 mm standard length, Kasasa, Minami-satsuma, Kagoshima, southern Japan.



Fig. 2. Fresh specimen of *Antennarius hispidus*. KAUM-I. 34304, 105.9 mm standard length, Uchinoura Bay, Kimotsuki, Kagoshima, southern Japan.

毛状の皮弁を有する。背鰭第2-3棘はともに後方に曲がる。吻上棘を除く背鰭棘と軟条部は、厚い皮膚で覆われる。臀鰭最終軟条の後部の鰭膜と尾柄部が連続しない。鰓孔は胸鰭腋部下に位置する。胸鰭は体側中央に位置する。

生鮮時の色彩 体の地色は淡黄色から淡褐色を呈する。腹部を除く体全体に不規則な黒色線を多数有する。吻上棘は黒と白の縞模様で、その先端の皮弁は白色と黒みをおびた淡褐色を呈するもの、黒みが強いものと変異がある。各鰭は体色と同色であり、黒色斑が線をなすように並び、一部は繋がる。

分布 *Antennarius hispidus* はインド・西太平洋に広く分布する (Pietsch and Grobecker, 1987; Yoshida, 2013, 2017)。国内では神奈川県小田原市 (Senou et al., 2006)、和歌山県田辺湾 (池田, 1993; 池田・中坊, 2015)、みなべ町 (池田・中坊, 2015)、高知県柏島 (平田ほか, 1996)、鹿児島県大隅半島東側内之浦 (本研究)、薩摩半島西側笠沙 (本研究)、および沖縄県沖縄島 (横田・瀬能, 1991) から記録されている。

備考 鹿児島県本土から採集された標本は、鰓孔が胸鰭腋部下にあること、吻上棘基底が上顎の縫合部より前へ張り出すこと、吻上棘先端に一塊の羽毛状の皮弁を有すること、臀鰭の後端は尾柄部と鰭膜で連続しないことなどから、瀬能 (2013) が記載したボンボリカエルアンコウの標徴とよく一致したため、本種に同定された。

横田・瀬能 (1991) は、沖縄県知念漁協で得られた2個体 (URM-P 10530, 体長 133.0 mm; URM-P 19500, 体長 130.5 mm) に基づき、新標準和名ボンボリイザリウオを提唱した。その後、池田 (1993) は本種1個体 (体長 103 mm) を和歌山県田辺湾から、平田ほか (1996) は1個体 (KSHS 22372) を柏島から記録した。Senou et al. (2006) は神奈川県小田原市石橋沖で採集された本種1個体 (KPM-NI 14467) を報告した。その後、日本魚類学会標準和名検討委員会 (2007) により本種はボンボリイザリウオからボンボリカエルアンコウに改称された。池田・中坊 (2015) は、池田 (1993) が報告した1個体に加え、和歌山県みなべ町で採

集された1個体 [WMNH-PIS-WW 10216 (2), 体長 133 mm] を報告した。本種の国内における記録はこれらがすべてであり、したがって、本研究で報告した2個体のボンボリカエルアンコウは、鹿児島県からの初記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の採集には笠沙町漁業協同組合の伊東正英氏といおワールドかごしま水族館の土田洋之氏には多大なご協力を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには標本の作製・登録作業などを手伝って頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (29-747)、JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 参考文献

- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相. 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177.
- 池田博美. 1993. 紀南沿岸で採れたイザリウオ科・ハタ科魚類の2種種について. 南紀生物, 35 (1): 79-80.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>
- 日本魚類学会標準和名検討委員会. 2007. 日本産魚類の差別的標準和名の改名最終勧告. <http://www.fish-isj.jp/info/070201.pdf>
- Pietsch, T. W. and Grobecker, D. B. 1987. Frogfishes of the world: systematics, zoogeography, and behavioral ecology. Stanford University Press, Stanford. xxii + 420 pp., 56 pls.

- 瀬能 宏. 2013. カエルアンコウ科. Pp. 537–542, 1883–1885. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏・川本剛志. 2002. 日本から初記録のヒメヒラタイザリウオ (新称). I. O. P. Diving News, 13 (4): 2–6.
- Senou, H., Matsuura, K., and Shinohara, G. 2006. Checklist of fishes in the Sagami Sea with Zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the influence of the Kuroshio Current. Memoirs of the National Science Museum, 41: 389–542.
- 横田雅臣・瀬能 宏. 1991. 日本産イザリウオ科魚類 — 学名および和名の整理 —. I. O. P. Diving News, 2 (6): 2–5.
- Yoshida, T. 2013. *Antennarius hispidus*. P. 54. Yoshida, T., H. Motomura, P. Musikasinthorn and K. Matsuura (eds.), Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima.
- Yoshida, T. 2017. *Antennarius hispidus*. P. 55. Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. P. Babaran, and S. Ishikawa (eds.), Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.